

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

平成 30 年度

事業所名：中標津町児童デイサービスセンター

チェック項目		はい	いいえ	現状と課題
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		職員間でお子さんの状況に合わせて、使用する個別指導室を調整しております。
②	職員の配置数は適切であるか	○		臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、保育士の 4 名体制を配置しております。
③	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎朝、委託業者による清掃を行っております。保育室と個別指導室、ホールを利用して、活動形態や内容に合わせて療育を行っております。
④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	○		定期的な職員会議等を実施し、お子さんの発達状況について確認し、振り返りを行っております。
⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○	今年度より評価を実施し、次年度以降の業務改善に努めます。また、会報により周知します。
⑥	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○	
⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	
⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		自己啓発により講演会、研修会の参加をしております。
⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	○		保護者からの聞き取りや観察を通して、課題を確認し、計画を作成しております。
⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		お子さんの状況に応じてアセスメントツールを使用しております。
⑪	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		お子さんとご家族が必要とされる支援を選択して、具体的な支援を設定しております。
⑫	個別支援計画に沿った支援が行われているか	○		お子さん一人ひとりの特性・状況に合わせた療育を一番に考えております。また同時に保護者のニーズに合わせて効果的な指導を取り入れたいと考えております。専門職の意見も取り入れながら指導内容の検討を行っております。
⑬	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		
⑭	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○		
⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組	○		未就園児童には親子通園の集団療育を提案しており

	み合わせて個別支援計画を作成しているか			ます。就園児童には個別指導で対応しております。
⑩	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		朝の打ち合わせ時にお子さんの確認をし、支援会議等で振り返りを行っております。常に職員間での情報の共有と共通理解が図れるように努めております。
⑪	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認しているか	○		
⑫	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		担当制の支援を行っていますが、専門職の特性を生かし、指導内容や方法について職員全体で話し合う体制がとれております。
⑬	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半年に1回モニタリングを行い、計画の見直しをしております。
⑭	障害児相談支援事業所のサービス担当責任者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		担当者が主に参加し、必要に応じて児童発達支援管理者も参加します。
⑮	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		保健師、子育て支援係、子育て支援センターとの連携した支援を行っております。
⑯	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		関係医療機関や保健師からの事前情報の提供を頂き、連絡体制を整えております。また必要に応じて町の福祉課、相談支援事業所、特別支援学校等関係する機関と連携した支援を行っております。
⑰	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		
⑱	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		並行通園しているお子さんが多く、必要に応じて保育園、幼稚園等と連携をとっております。
⑲	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で支援の内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		小学校や放課後デイ、児童館クラブ等移行支援の引継ぎを行っております。
⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門支援機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		北海道肢体不自由児総合療育センターからの巡回相談やくしろ地域支援センター、美幌療育病院の専門職支援を受けております。
㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流する機会があるか	○		併設の町立保育園の行事参加や交流を行っております。
㉒	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等への積極的に参加しているか	○		子ども・子育て会議や中標津町障がい者地域自立支援協議会等に職員が参画しております。
㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	○		個別指導に同伴されない場合は、送迎時や面談時にお子さんの様子について聞き取りをしたり、様子をお伝えしております。
㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対し	○		一般的なプログラムをそのままお伝えせず、お子さん

	て家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っているか		の発達状況に合わせた対応を提案できるように心掛けております。
③①	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	契約前に文書での説明や負担金改定時には事前に文書で伝えしておりましたが、今後も丁寧な説明を心がけていきます。
③②	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	○	保護者の希望に沿った個別支援計画を作成し、十分な説明をしていくように努めていきます。
③③	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	定期的に行う面談の他に、保護者から申しあれば迅速に対応させていただきます。
③④	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	「どらえもんくらぶ」等の懇話会への紹介だけでなく、センターでの保護者同士が情報交換できる場の企画を行っています。
③⑤	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合には迅速にかつ適切に対応しているか	○	定期的に行う面談の他に、保護者から申しあれが迅速に対応させていただきます。
③⑥	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	定期的な会報を発行して、情報を発信していきます。
③⑦	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○	個人情報については職員に適正な取り扱いをするように周知徹底をしております。
③⑧	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	お子さんの状態に合わせたコミュニケーションツールを使用しております。
③⑨	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	障がい者団体と共同で行う年 1 回の福祉のつどいに参加し、協力させて頂いております。
④⑩	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	緊急・衛生マニュアルを元に、その対応について職員で周知しております。また、保護者への周知として掲示、会報を利用していきます。
④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	併設されている町立保育園との合同で年 2 回避難訓練を行っています。
④⑫	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○	保健・医療情報等は、保護者からの聞き取りを行い、健康状態について確認しています。
④⑬	食物アレルギーのある子どもについて、医師の診断書に基づく対応がされているか	○	食事の提供を行う場合は、保護者よりアレルギーの有無を確認して対応しております。
④⑭	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	事例集は作成していませんが、事故や怪我を防止するために、施設の安全性について点検し危険を防止できるように努めます。
④⑮	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	年数回、外部研修を受けて職員に周知しております。

	<p>④⑥ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。</p>		<p>○ 約 1 時間程度の療育の中で身体拘束を行う状況になることはありませんが、職員会議で不測の事態を想定した対応について研修を行っていきます。</p>
--	--	--	---

・今回、利用した表は平成 29 年に厚生労働省が示した児童発達支援ガイドラインを用いておりますが、一部内容を訂正しております。

・「はい」「いいえ」の明確な判断がつきにくい項目がありましたが、現状と課題で解釈を補足しております。